

長野県・個人邸

アプローチは庭中央の流れを橋で渡り、日陰から明るい芝生の方へ導かれる



敷地内の井戸水を活かした庭。敷地の中央に水の流れと水辺の山野草、それを囲む雑木林



病院の手術室前の窓から見える庭。自然の一部を切り取るのではなく、自然界を象徴的に表現した(長野県・篠ノ井総合病院)

村や町の風景のなかには、水辺に設けられた洗い場や公共の井戸周りなど、長年使い込まれた痕跡が見え隠れしています。そのような「気配」のある風景が好きです。庭も目前の木や石の間に存在する気配から、何かを感じられるようにつくれたらと思っていました。庭は希薄になりつつある大切な「自分」を見失わないための古典的なメディアではないでしょうか。私はその必要性を提案し、できるだけ人々の心の声をかたちにしていきたいです。

自分で見失わないためのメディア



1962年生まれ。東京芸術大学大学院機器デザイン専攻修了。アジアの古典芸術を学ぶため、大学時代に2年間インドネシアの国立芸術大学に留学。別世界をつくり上げるパリ島の古典芸術に接したことでの日本庭のもつ「小宇宙」の世界観に魅了される。8年間の造園会社勤務を経て、2003年に「庭のクリニック」を設立。同年、長野県技能競技会造園工事において銀賞受賞。視覚効果を利用した空間演出を得意とする。1級造園技能士。

國
藤
稔

M I N O R U K U B O